

進されたが、宇都宮市にとっては戦中の工業近代化に続く第二の近代化といえる。立地条件には、地価、交通事情、労働力の存在、東京と東北との結節点という位置などがあげられる。

④市街地の拡大は東部の台地への飛地的発展が著しく、西北、南方向への拡大も見られる。次に地域分化を土地利用図、航空写真から考えると、中心部は国鉄宇都宮駅～東武宇都宮駅間の東西に細長い地域で、その地域内で更に官庁地域、業務地域、娯楽地域、商店街に分化している。この中心部周辺には住宅地、商工業混合地域が隣接し、更に農村との境界には工場、倉庫が存在する地域が見られる。

神奈川県の密柑栽培

伊 坪 美知子

論文の目的は神奈川県の密柑栽培の立地上の特質を考察することである。密柑といっても、日本の柑橘の経済品種が温州みかんを中心としていて、雑柑類の比重は低いため、本論においては温州みかんのみ取り扱い。調査地域は神奈川県の密柑栽培地を全て含む。

柑橘は熱帯の原産であるため、気温を主とする気候の制約を受けるが、温州みかんは日本の特産で、耐寒性があるため、九州から茨城県に至るまで広く栽培されている。神奈川県は経済的大産地として北限にあたる。果樹生産の農業における地位は面積にして4.5%、農業粗生額にし6.9%であるが、うち温州みかんは面積で1.8%を占め、今後とも益々、その生産は増加するとみられ、傾斜地利用の経済性と共に、果樹生産においても、日本農業においても、小規模ながら重要な位置を占める。

神奈川県は水田適地が少なく、自給的畑作地帯であったが、江戸末期の横浜開港以来、西洋野菜を中心とする都市近郊蔬菜地帯へと変わり、その中で傾斜地利用作物として千年以上の歴史を持つ柑橘栽培地への新しい品種として温州みかんが導入され、小田原近傍の漁村、山村を中心として広がっていった。昭和30年までは全国五位の生産を誇っていたが、西南暖地の新植ブームにより、新植適地の少ない神奈川県の地位は低下し始め、昭和43年度は10位であった。

県内の柑橘栽培地域は農家の経営形態、出荷期等からみて、七つの地域に分けられるが、これらの地域差をもたらしたものは、気候条件の微妙な差ではなく、むしろ地域の文化性、大都市への交通位置、競合作物の存在、他産業からの労働力吸収等であると考えられる。

神奈川みかんはその立地上、三つの特質を持っていると考えられる。①北限地域のみかんとして酸味が強いこと、②都市近郊に位置するため大市場に近いが、反面、都市化の影響が著しいこと、

③品質の似た果実を大量に産する静岡県に隣接していること。

①の色づきは早いが高酸度の高い、つまり外観と内容のアンバランスな品質のみかんを産することはみかんの貯蔵を必然化し、又、この自然条件を逆に利用し、早生温州の生産を有利に行なっている。そしてこの早生と年内ものと貯蔵の組合わせは農家の経営構造に関係し、専業別、階層別の出荷形態を特徴づけている。つまり、貯蔵は生産農家の個別的对応であり、小量分散方式であるため、資本蓄積のある上層農家に結びつき、又、早生は水田との多角経営では労働時期が重なるため、導入が困難である等である。このように自然条件は生産と流通の基盤を形づくり、更に農家の経済的諸条件にも影響を与えているが、この様な自然条件が産地の経済的性格を直接、複雑化しているのではなく、産地の技術的・経済的対応の仕方が二次的に産地の相違を作り上げているのである。

②の市場立地の特色はみかん農家の間で、労働力の差と技術の差をもたらして、産地の地域差の一要因となった。そして①と②によるみかん栽培農家の分化は分化に見合った複雑な市場対応を作り上げた。

市場への交通位置の有利性を持ちながらも、急速な交通の発達により、その格差はちぢまりつつある一方、労働力不足による生産費の上昇と兼業化は産地としての統一を弱め、全体として神奈川みかんの市場での声価を低めている。そして③の静岡県に隣接することは鉄道開通による静岡みかんの交通位置の有利化と共に、相対的に神奈川みかんの市場での地位を低下せしめた。

その結果、神奈川みかんは、生産市場では静岡産みかんの出荷先の間隙をぬって、又、輸送手段の機動性を利用して、東北・関東市場と結びつき、早生と貯蔵では部分的に京浜市場と結びついてはいるが、全体としては、その特性を生かして加工原料市場への結びつきを強めているのである。

米 沢 盆 地 の 地 誌

——農業を中心として——

石 井 悠 美 子

東北地方の南部、奥羽山脈を出羽丘陵にはさまれて米沢盆地がある。気温の較差の大きい、そのために米作と、果樹作には適した気候をもつ盆地である。中心都市は米沢、人口が10万の広い山林をもつ広域都市である。上杉藩の時代から開発がなされ、織物で有名な町である。しかし他の都市化の進んでいる町に比べると、ひどく成長の遅い保守的な街である。変化がなすすぎるのである。市街地の南方は南原とよばれる畑作地帯で、野菜、タバコ、ホップなどの工芸作物が作られている。西部の館山は伊達時代の城跡があり、リンゴが多い地域である。